



# 自衛隊群馬地方協力本部

JAPAN SELF DEFENSE FORCE GUNMA PROVINCIAL COOPERATION OFFICE

## 群馬大学で職業講話 情報学の重要性を強調 ～自衛官が語る「情報と職業」～

前橋募集案内所長 土屋 章



海上自衛隊所属の高岸2尉による講話



自衛隊員数について説明



情報保全やサイバー分野の重要性が増す現状を説明

自衛隊群馬地方協力本部（本部長 防衛事務官 上野和人）は令和7年10月7日（火）、群馬大学大学院情報学研究科に在籍する海上自衛隊所属の高岸2海尉による職業講話「情報と職業」を支援しました。

講師は現在、自衛隊の研修の一環として同研究科の修士課程に就学しており、今回の講話では現場経験と学術研究の双方の視点から情報の重要性和キャリア形成について、学部生・大学院生約56名に対して90分にわたって話されました。

講話ではまず、自衛隊における情報の扱い方を紹介し、情報保全やサイバー分野の重要性が増す現状を説明し、任務遂行に必要な情報分析やセキュリティの基礎について触れ「正確な情報を迅速に扱う能力は自衛隊だけでなく社会全体で不可欠です」と述べられました。

続いて、大学院で学ぶ情報学の内容や研究が、将来的にどのような自衛隊で活かされるのかを紹介され「組織防衛、通信システム、サイバー対策など情報学の知識は幅広い分野で応用できる」とし、AIの発展や高度化する通信環境に対応できる人材の育成が急務であると強調しました。

参加した学生からは「防衛省や自衛隊において情報学を活用できるキャリアが存在することを初めて知って驚きました。より情報分野について詳しく知れるイベント等があれば参加してみたい。」「自衛隊には、とても多種多様な職種があることを知り、講師が言った自衛隊は小さな社会という言葉が印象に残り興味が沸いた。」「型苦しい昭和気質な組織感があったがイメージが変わった。」「官庁は選択肢になかったが、日本を守ることができるとやがいの大きさに魅力を感じた。」「といった声が聞かれました。

講話を企画した教授からは「複雑化する社会の中で、情報を扱う能力を身につけることが全てのキャリアに必要。大学で学習する情報分野の知識を社会で活かすため、情報分野に関係する様々な業務と職種について理解することが大切。」と、今後も多様な現場経験者を招いた講話を継続していく方針と話していました。

群馬地方協力本部は、引き続き各学校と連携し職業選択の一環として自衛官という職業やその使命への理解を深めてもらう機会を広げていきます。



多くの聴講者が集まった会場



個別の質疑対応する高岸2尉と前橋所長